



連合奈良の日(8月度)

連合 2021 平和行動

平和で安定した社会・暮らしの実現をめざして

近鉄五位堂駅で、連合の「平和行動」について街宣を行いました。私たちの労働運動も平和な社会があってこそ。1年に1度くらいは真剣に戦争や平和について考える時間を持ちたいものです。現体験を語る人が年々減っていくことへの危機感。それは平和な時間が続いた証なのかもしれません。けれど、平和行動で訪れる沖縄や広島、長崎では小学生にまで戦争の悲惨さや平和の尊さが連綿と受け継がれているように思います。毎年巡ってくる「平和」を考える時期です。平和ボケ、極楽とんぼと言われない様「平和」のこと考えてみましょう。



日本が今のところ平和であることの有難さを噛みしめながらも不条理な待遇や働く上で疑問に感じること、変だなあとすることは、連合の労働相談ダイヤルに！一人一人が伝道師。伝えよう！連合運動を！

これからの社会連帯

分断された社会からの再生へ

7月21日に「連合サマートップリーダーセミナー」が総勢700人程の参加で海外とも繋いでWEB開催された。なるほどWEBによるセミナーや会議は時空を超えて海外とリアルタイムで情報つを共有できるんだと実感した。もちろん時差は克服できないので海外から登壇された講師方は目をこすっていたかもしれない。

そのセミナーで「ベーシックサービス」(医療や教育、命を守るうえで欠かせない基礎的な行政サービス)という話があった。●教育・医療・介護・障がい者福祉を「ベーシックサービス」と位置づけ、全ての利用者に無償で給付●失業しても、何人子どもが生まれても、何歳まで生きても暮らしの不安の無い社会へ●ベーシックサービスを起点に勤労や納税の義務を果たせる社会を目指す・・・というような内容だったが、いい社会だと思いつつ、実現可能なのか？との疑問が同時に湧いてくる。「弱者を助ける」→「弱者を生まない」社会。実現できればいいのにと。いや、私たち労働組合の活動がその一部を担うことを負担に思っていないのだと思う。

コミュニケーションと労働審判

存知の方も多いと思いますが、労働審判制度は解雇や給料の不払いなど、労働者と事業主間の個々(個別労働関係)のトラブルを、その実情に即して迅速かつ実効的に解決するための手続です。

具体的な事例は書けませんが、多くの場合「もう少し人間関係が良かったら」「職場環境がもう少し快適だったら」「もう少しコミュニケーションが取れていたら」・・・と思う事案が多いのが実態です。

平和の祭典とコロナ感染

開催中止を叫ぶ多くの声、無観客だ、有観客だ、有観客なら何人までだ！などと様々な意見がある中、ハッキリとした指針が示されることもなくモヤモヤした気分の中で始まったTOKYO2020。日本時間で考えてはいけないのだと思いつつも開会式が何でこんな時間から・・・とやっぱり思ってしまった。



TOKYO 2020



けれど、始まってみれば応援したい気持ちが盛り上がってくるものですね。前半からメダルラッシュの今大会は、否が応でも盛り上がり。感動を貰い、涙も貰い、そして爽やかな笑顔も貰って

「ああ、やっぱりオリンピックはいいなあ」「開催出来て良かった」というのが多くの人の実感ではないでしょうか。

一方で、懸念されていたコロナ感染者の急増で、またまた効果の分からない緊急事態宣言の発出となった。「今回の宣言が最後となる覚悟で対策に全力を挙げる」と総理は仰るが、以前の宣言発出時にも同じメッセージを聞いた気がする。2回目なら「そうか！」とも思うが、最後となるような覚悟が施策として見えない。見えないどころか影さえ感じないと言ったら言い過ぎか？

オリンピックの勝者に送られる月桂冠(実際はオリブらしい)、方やその「冠(Crown)」が呼称の基となった「新型コロナウイルス感染症」・・・いやはや皮肉っぽい。

